

主 題：救い主の死

聖書箇所：マルコの福音書 15章21－47節

イエスはさばきを受けた後、ゴルゴダの丘へと向かいます。三つの出来事を追いながら、見てゆきましょう。

A. 十字架への道 21, 22 節

イエスは自分がかかる十字架の横木を自ら負ってゴルゴダの丘へと向かいます。その途上、力尽きたイエスの代わりに、その十字架をローマ兵はクレネ人シモンに負わせます。クレネ人とはアフリカのリビヤの国の人で、そこには多くのユダヤ人が住んでいました。シモンはローマ兵にむりやりに負わせられたのです。

B. 十字架 23-41 節

1. ローマ兵の行動 23-27 節

朝の 9 時、ローマ兵はイエスに没薬を混ぜたぶどう酒を飲ませようとしています。これは感覚を鈍らせて囚人を扱いやすいようにするためです。しかし、イエスは飲まれません。そして、イエスは十字架に架けられるのです。兵士たちはイエスの所持品を分け合います。イエスの罪状書きは「ユダヤ人の王」でした。ヨハネ 19:19 にはピラトが「ユダヤ人の王ナザレ人イエス」と書いたとあります。

27 節には二人の強盗をひとりは右に、ひとりは左に十字架につけた、とあります。

2. 人々の態度 29-32 節

これらのことを見ていた人々はどのような様子だったでしょう？

(1) イエスをののしった。 29 節

「神殿を…三日で建てる人よ。…」、そんな大きなことを言って、「…自分を救ってみろ。」と。イエスのご自分のからだのことを言われたのですが、彼らにはわかりませんでした。

(2) イエスをあざけた。 31 節

祭司長と律法学者は人々の先頭に立ってイエスをあざけるのです。彼らはイスラエルのリーダーです。イエスは救世主なんかではない、何と無力なことよ！と。あくまで、彼らはイエスを信じようとしません。

(3) イエスに悪口を言った。

マタイ 27:44 には、強盗どもも同じようにイエスをののしった、とあります。ルカ 23:39 には「十字架にかけられていた犯罪人のひとりはイエスに悪口を言い、『あなたはキリストではないか。自分と私たちを救え。』と言った。」とあります。

3. 自然界の異変 33 節

(1) 全地が暗くなった。

12 時から午後 3 時の間続きました。マタイ 27:45 「十二時から、全地が暗くなって、三時まで続いた。」、ルカ 23:44-45 「そのときすでに十二時ごろになっていたが、全地が暗くなって、三時まで続いた。」この次からは、イエスが息を引きとった後の出来事です。

(2) 神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。

マタイ 27:51 「神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。そして、地が揺れ動き、岩が裂けた。」ルカ 23:45 「太陽は光を失っていた。また、神殿の幕は真二つに裂けた。」この神殿の幕とは、聖所と至聖所とを仕切る幕です。これが真二つに裂けたということは、罪の赦しを現わすのです。もう罪の赦しのためのいけにえは必要ないということです。「完了した」(ヨハネ 19:30) のです。

(3) 地震が起こった。

マタイ 27:51 「…そして、地が揺れ動き、」

(4) 岩が裂けた。

マタイ 27:51 「…岩が裂けた。」

(5) 墓が開いて死人(聖徒)がよみがえった。

マタイ 27:52, 53 「また、墓が開いて、眠っていた多くの聖徒たちのからだが生き返った。そして、イ

エスの復活の後に墓から出て来て、聖都にはいって多くの人に現われた。」

#### 4. イエスのことば 34 節

十字架上でイエスは七つのことばを語られています。それを見てみましょう。

(1) 「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」ルカ 23 : 34

これは驚くべきことばです。自分を十字架につけ、ののしりあげた人々のために、その赦しを父なる神にとりなしたのです。

(2) 「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」ルカ 23 : 43

わずかの時間に犯罪人のひとりが罪を悔い改めたのです。彼は十字架上でその罪が赦されました。

(3) (イエスは、母と、そばに立っている愛する弟子とを見て、母に) 「女の方。そこに、あなたの息子がいます。」(と言われた。それからその弟子に) 「そこに、あなたの母がいます。」(と言われた。) ヨハネ 19 : 26。ここで暗やみが襲います。

(4) (三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」(と叫ばれた。これは、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」という意味である。) マタイ 27:46、マルコ 15:34 エリ、エリはヘブル語です。マルコには「エロイ、エロイ」となっていますが、これはアラム語です。イエスはここでは『わが神』と呼ばれています。『父よ』ではありません。これは罪のためです。イエスご自身の罪ではなく、私たちの罪を身代わりに負ってくださったのです。イエスの心からの叫びなのです。「お見捨てに…」とは、父なる神とイエスは特別の交わりがあったのですが、このとき、父なる神が一度だけイエスを見捨てられたのです。ここで「身代わりの死」についていくつかの個所を見てみましょう。

イザヤ 53 : 5 「しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。」

1 コリント 15 : 3 「キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、」

2 コリント 5 : 21 「神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。」

ガラテヤ 3 : 13 「キリストは、私たちのためにのろわれたものとなって、…」

1 ペテロ 2 : 24 「そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。」

1 ペテロ 3 : 18 「キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです。」

そして、マルコ 10 : 45 「人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。」。これはマルコの福音書の中心主題です。神はその思い=罪を憎むこと=を私たちに明確に示されます。そして、それを行動として現わされるのが、罪をさばく、罪人をさばく時です。これは罪の恐ろしさ、神に逆らうことの恐ろしさを私たちに教えるものです。私たちは、イエスが私たちに代わって罪を負ってくださったことによって、父なる神に永遠に背を向けられることはない、という保証を得るのです。

(5) (この後、イエスは、すべてのことが完了したのを知って、聖書が成就するために、) 「わたしは渇く。」(と言われた。) ヨハネ 19 : 28

(6) (イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、) 「完了した。」(と言われた。) ヨハネ 19 : 30

「完了した」というのは仕事を完成した、苦闘を通して栄冠を得た、救いの道が完成したことの勝利の叫びなのです。

(7) (イエスは大声で叫んで、言われた。) 「父よ。わが霊を御手にゆだねます。」(こう言って、息を引き取られた。) ルカ 23 : 46

#### 5. 百人隊長のことば

マルコ 15 : 39 「この方はまことに神の子であった。」。マタイ 27 : 54 にはこのように書かれています。

「百人隊長および彼といっしょにイエスの見張りをしていた人々は、地震やいろいろの出来事を見て、非常な恐れを感じ、『この方はまことに神の子であった。』と言った。」。この「恐れ」は怖いという恐怖ではなく、神への畏敬の念です。使徒 2 : 37 「人々はこれを聞いて心を刺され、…」、同じく使徒 16 : 29, 30 「看守はあかりを取り、…パウロとシラスとの前に震えながらひれ伏した。…『先生方。救われるためには、何をしなければなりませんか。』と言った。」。黙示録 11 : 13 「そのとき、大地震が起こって、…生き残った人々は、恐怖に満たされ、天の神をあがめた。」。このような様子です。

ルカ 23 : 47 にも「この出来事を見た百人隊長は、神をほめたたえ、『ほんとうに、この人は正しい方であった。』と言った。」とあります。「あった」とは百人隊長の確信による表現です。イエスのことばのとおりだった、本当にそのとおりの人だった、と。十字架の上のイエスのすべてを見、そのことばを聞いて

て、百人隊長はイエスを受け入れたのです。「まことに」という表現は、ユダヤ人の不信仰とあざけりに対比しています。イエスに対する知識から信仰へと移ったのです。

#### 6. イエスを愛した女性たち 40, 41 節

この一連の出来事を見ていた女性たちがいました。マグダラのマリヤ＝イエスによって七つの霊を追い出されました。その後、主に忠実に従って行きす。小ヤコブとヨセの母マリヤ＝クロパの妻でマリヤの姉妹です。サロメ＝ヤコブとヨハネの母です。また、イエスの母マリヤもいました。イエスはヨハネに「ここにあなたの母がいます。」と言われました。ヨハネはこの時から、マリヤを自分の家に引き取ったのです。これらの女性たちはイエスへの愛を具体的に現わしました。イエスに従っていくという行動によって…。このようにすばらしい信仰的な女性たちがいたことを私たちは知るのでした。

#### C. 十字架から墓へ 42-47 節

金曜日の夕方になりました。アリマタヤのヨセフはイエスのからだを引き取ります。亜麻布を買ってそれで遺体を包みました。このとき、没薬とアロエを持ってきたのがニコデモです（ヨハネ 19：39）。

⇒ 十字架こそが最高の神の愛、救い、恵みなのです。

私たちはチャレンジを受けます。

- ・ 今、主に一番感謝したいことは？
  - ・ その感謝をどのようにあらわしますか？
- どうぞ、おひとりひとりで考えてみてください。